

OJAE *Oral Japanese Assessment Europe* CEFR 準拠日本語 L2 口頭産出能力評価法  
—「発話抽出ビデオ・コーパスによる評価者能力育成のための共同動画注釈用システム構築  
プロジェクト化」を目指して

OJAE ORAL JAPANESE ASSESSMENT EUROPE

Towards the creation of a collaborative video annotation system for oral production samples, with the  
purpose of enhancing the assessment competence of raters

萩原幸司, フランス国立社会科学高等研究院博士課程

HAGIHARA Kôji, doctorant à L'École des hautes études en sciences sociales.

Berthold Frommann, Japanese studies, English philology. Freie Universität Berlin.

山田ボヒネック頼子 (OJAE 研究チーム代表), 《社》ヨーロッパ日本語教育学研究所

Dr. Yoriko YAMADA-BOCHYNEK, EIJaLE *European Institute of Japanese Language Education*,  
*Registered Association*.

OJAE 研究チーム他 7 名: 酒井康子, ライプチヒ大学東アジア研究所日本学科; 宝田紗希子,  
宝田学園明成幼稚園; 高木三知子, ICHEC ブリュッセル商科大学; 梅津由美子, カニジウス  
高校/ベルリン フンボルト大学; 田中井 渉, ベルリン工科大学言語文化センター; Dr.  
渡部淳子, ケルン大学東アジア研究所日本学科; ラウシェンバッハ本間千尋, IH Berlin  
PROLOG/Sprachen-Atelier Berlin/ベルリン日独センター

**【要旨】** OJAE (*Oral Japanese Assessment Europe*)は『ヨーロッパ言語共通参照枠』に準拠し、  
他印欧語テスト先行研究(英・仏・独)を基盤に開発された日本語 L2 口頭産出能力テスト・  
評価法である。本ワークショップは、学習・教授・評価が一体となった OJAE の方法論を、  
今後の課題と共に呈示し、OJAE が今後更に日本語教育界に貢献していく上で、その足掛かり  
となるであろう「発話抽出ビデオ・コーパスによる評価者能力育成のための共同動画注釈  
用システム構築プロジェクト化」の可能性を参加者と共同で探求するものである。

**【キーワード】** OJAE, CEFR, ビデオコーパス, オンラインキャリブレーション, 共同動画  
注釈用システム

## 0. 本ワークショップの中心テーマ

本ワークショップでは、OJAE 研究開発チーム(以下、研究チーム)側から日本語 L2 口頭  
産出テスト評価法を呈示し、OJAE が、今後更に日本語教育界に貢献していく上で、その足掛  
かりとなるであろう「発話抽出ビデオ・コーパスによる評価者能力育成のための共同動画注  
釈用システム構築プロジェクト化」の可能性を参加者と共同で探求する。

本ワークショップは、下記の2部構成とする。

- 1) OJAE テスト評価法及び今後の課題の提示
- 2) 「共同動画注釈用システム」構築プロジェクト化を目指しての共同探求

## 1. OJAE とは

OJAE とは、欧州在住研究者 10 名が『ヨーロッパ言語共通参照枠』(CEFR (*the Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment*)) に準拠し、他印欧語テスト先行研究(英・仏・独)を基盤に開発した日本語 L2 口頭産出力テスト・評価法であり、下記の6点を特徴とする。

- 1) CEFR は、CDS (Can-do Statements 能力記述文) を通して普遍的な言語能力習得段階を記述するが、OJAE はその個別言語化・日本語特化として「CEFR-OJAE 基準表」を明示し、全ての L2 日本語教育ステークホルダー(以下 SH: 学習者・授業者・教育機関など)にとっての「共通理解言語」を提供する。
- 2) 受験者は母語で「CEFR表2: 共通参照レベル自己評価表」により、テストレベルを自己申告し、自己のL2習得状況の確実な把握及び次なる学習目標の設定に役立て、自主学習・習得管理の一環とする。
- 3) テストは接触場面として設定: 2-2 形態「受験者 2 名: 試験者 2 名(1名は出題者/臨場者, 1名は背景にて評定)」。
- 4) 「テストスクリプト」を採択し、試験者の口頭試験能力の優劣が発話抽出に影響するのを回避する。スクリプトは、言語プロンプトとしてのタスク出題、各種視覚プロンプト提示のト書き、課題配当時間などを明記した「テスト進行シナリオ」であり、テスト場面の普遍的な同一性を図る。各レベルの必要時間: A10 分, B15 分, C20 分。
- 5) 受験者の口頭産出の場として、(1)試験者との応答、(2)一人で話し続ける「独話」、(3)ピア(受験者)とのインタラクションで話す「交話」の3種レスポンスの場を設け、多角的な発話抽出を図る。
- 6) 評価は9段階評価(6レベル【A1-A2-B1-B2-C1-C2】+3中間レベル【A2<sup>+</sup>B1<sup>+</sup>B2<sup>+</sup>】)で行う。OJAE 基準表により、会話の質的5側面(使用幅、正確さ、流暢性、結束性、交話力)のCDS階層性を観点に各レベルで合否判定する。よって総てのSHにとって客観的且つ透明度の高い評価及び習得現況把握が可能になり、日本語クラスの公・個の次なる目標への適確なナビとして機能しうる。

OJAE は、日本語口頭産出力の階層性を CEFR 尺度に照合することにより、受験者には L2 習得進捗状況の自主モニターを可能とし、試験者・授業者には、テスト結果から「次の学習項目は?」という授業構築・L2 支援上必須の質問に対し、指針的回答を与えることを可能とした。その成果は 2010 年 10 月『初版 OJAE 研究報告書レベル例示 (A1, A2, B1, B2, C1,

C2) DVD 搭載』として発刊され、同時に HP も構築、例示ビデオも公開されている (www.ojae.org.)。

このように、OJAE は一先ず完成を見たが、内在する課題は主として以下の 2 点である。

一つは、テストスクリプトのレパトリを拡張することである。これは、テスト自体が実施回数を増やしていくのに伴い、必然的な補完である。

もう一つは、「文法からテキスト文法へのパラダイム・チェンジ」を提唱することである。OJAE 評価には、「L2 話者は結束性・テキスト構築力が弱い」という結果が如実に現れている。これは、OJAE の実践研究がこれまでに明らかにした現行日本語 L2 教育上の問題点であり、研究チームはこれからの日本語教育に対し、そうした現状の克服を目指した方法論を提唱していく企画を立てている。

## 2. 「共同動画注釈用システム」構築プロジェクト化を目指して

研究チームは、OJAE を世界の日本語教育並びに外国語教育で活かすべく、テスト方に内在する課題の解決と同時に、世界規模でのネットワーキングに尽力していく活動を開始している。

複言語・複文化主義を掲げる CEFR は、提供され始めて既に 10 年余を経ており、例えば「中国政府公認の中国語資格」である HSK(中国語能力試験)に「世界共通基準」として採用されている事実にも見られるように、その普遍的な言語習得階層観が広く世界に浸透するまでに至っている。

しかし欧州圏内でも全外国語教育 SH がこの「共通言語」を共有しているわけではなく、まして L2 日本語界でも上記階層化を他 SH・他言語と共有するまでには至っていない。なるほど「読・書・聴」分野では、日本語能力試験、JF スタンダード、みんなの Can-do サイトなどにより 6 段階基準共有化は進んでいるが、「話技能」分野では未達成である。

こうした世界的な潮流にあつて、CEFR を日本語学習・教授・評価に於いて具現化した OJAE は、コミュニケーション能力評価・育成のための方策として、世界規模に於いて有効性を期待できるものであり、欧州のみならず、世界規模でのネットワーキングが望まれるところである。

研究チームはこれまで、ビデオ採録したレベル別の OJAE 各テストを商業ベースの Web 上で共有し、そのプラットフォームに構築したオンライン共同注釈法により、各自内在の評価尺度の自覚化と他者尺度との摺り合わせ・キャリブレーション (標準化) を重ねて OJAE 評価法を完成させてきた。

「キャリブレーション」とは、例えば人は自分の持っている時計をグリニッチ標準時計 (=セシウム原子時計) の「協定世界時基準」に合わせようとするが、時計を見て「何分進んでいる/後れている」と気づき、必要ならば調整する、その営為を言う。基準に合わせ、「摺り合わせる」ことである。この摺り合わせには、時計を合わせるような「外的世界」的なものもあれば、各自の「体内時計」のような身体内在・脳内現象に関わることもある。「内在の物差し」は、外から観察できないだけにまず「自覚」するのに時間がかかり、他者との「摺

り合わせ」にもその分時間・労力が必要であり、「尺度目盛り共有」も訓練・洗練されなければならない。

このようにして蓄積された判定済みテストビデオは 90 本を越え、L2 日本語教育に応用が可能なビデオコーパスを構築している。こうしたビデオコーパスを広く活用できる、商業ベースではない、例えば**大学サーバーなどの（？）**安定した Web システムが構築されれば、日本語教師並びに外国語教師が各自の「内在評価尺度」を意識化し、教師間・言語教育間で「世界共通基準」の共有が可能となる。それは L2 日本語教育だけでなく、他言語教育も含めた評価者能力育成に大きく寄与するものとなるであろう。

以上の理由から研究チームは、CASTEL/J 関係者の御協力により、商業ベースに拠らない形態での安定した Web プラットフォームとして「共同動画注釈用システム構築」をプロジェクト化し、日本・欧州・世界の L2 日本語教師・外国語教師と共有していきたいと切に願うものである。そのため、研究チームは本ワークショップの場を借りて、外国語教育及び CIT 専門家の諸氏に御支援・御協力を依頼する次第である。

#### 【参考文献】

ALTE. (2011). *Manual for Language Test Development and Examining*.

<[www.coe.int/T/DG4/Linguistic/ManualLanguageTest-Alte2011\\_EN.pdf](http://www.coe.int/T/DG4/Linguistic/ManualLanguageTest-Alte2011_EN.pdf)> .

Bolton, S, Glaboniat, M, Lorenz, M, Perlmann-Balme, M and Steiner S (2008) *Mündlich: Mündliche Produktion und Interaktion Deutsch: Illustration der Niveaustufen des Gemeinsamen europäischen Referenzrahmens*. München: Langenscheidt.

Council of Europe (2001) *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching and Assessment*. Cambridge: Cambridge University Press.

Council of Europe Language Policy Division (2008) English: DVDs with samples of spoken production illustrating the European reference levels of the Common European Framework of Reference for Languages; French: A DVD

<[www.coe.int/t/DG4/Portfolio/?L=E&M=/main\\_pages/illustrationse.html](http://www.coe.int/t/DG4/Portfolio/?L=E&M=/main_pages/illustrationse.html)> .

DIALANG (2002) <[www.lancs.ac.uk/researchenterprise/dialang/fixing.htm](http://www.lancs.ac.uk/researchenterprise/dialang/fixing.htm)>.

ESOL <<http://www.cambridgeesol.org/exams/sfl/index.html>>.

Japan Foundation (2010) Japanese-Language Education Overseas

<<http://www.jpf.go.jp/e/japanese/report/24.html>>.

Japan Foundation (2009) JF Standard for Japanese-Language Education

<[jstandard.jp](http://jstandard.jp)>. Cf. also Minna no can-do saito (2010) <[jstandard.jp/cando/](http://jstandard.jp/cando/)> .

The Japanese-Language Proficiency Test (JLPT) (2010) <[www.jlpt.jp/](http://www.jlpt.jp/)> .

OJAE. (2010). 『CEFR 準拠日本語口頭産出能力評価法欧州共通言語参照枠レベル例示:研究報告・基準ビデオ搭載 DVD』 Berlin: OJAE. HP: <[www.ojae.org](http://www.ojae.org)>.

中国政府公認の中国語資格 HSK<[www.hskj.jp/index.html](http://www.hskj.jp/index.html)>.